

松 山 大 学 論 集
第 23 卷 第 3 号 抜 刷
2 0 1 1 年 8 月 発 行

県内大学生の結婚に対する意識

—— 性差と地域差の研究 ——

熊 谷 太 郎
曾 我 亘 由

県内大学生の結婚に対する意識

—— 性差と地域差の研究 ——

熊 谷 太 郎*
曾 我 亘 由†

概 要

近年、日本では少子化が進んでいる。その要因は様々であるが、特に未婚化・晩婚化が少子化の要因として強いとみられる。そのため、少子化対策として出産時における補助金制度や幼稚園や保育施設の整備などの既婚者向けの対策だけでなく、結婚するインセンティブを与えることも少子化対策として重要になる。愛媛県では、結婚支援センターを組織し、若者に出会いの場を提供したり、セミナーを開いたりするなど結婚支援政策に力を注いでいる。本稿では、将来的に結婚するであろう愛媛県内の大学生を対象に、アンケート調査を行い、結婚相手に何を求めるのかを分析する。また、性差や地域差が存在するか否かを分析し、その要因を考察する。

1 は じ め に

近年、日本では少子化が進んでいると言われている。その要因としては、女性の社会進出、男性の就業率や賃金、また社会的な選好の変化などが挙げられている。戦後間もない1950年の合計特殊出生率は3.65だった¹⁾。戦後復興期には減少するものの、1966年のひのえうまを除いて高度経済成長期は一貫して上昇傾向にあった(表1)。第2次ベビーブーム中で出生数が最も多かった1973年には、合計特殊出生率は2.17となった。しかし、高度経済成長期が終わり、

* 松山大学経済学部准教授

† 愛媛大学法文学部准教授

1) 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものである。

バブル経済が弾け、日本における合計特殊出生率は大幅に低下した（2009年の合計特殊出生率は1.37だった。）。職場での男女平等を確保し、女性が差別を受けずに、家庭と仕事が両立できるよう作られた男女雇用機会均等法が1986年に施行され、以来、女性の社会進出が進んできているのも1つの要因であるかもしれない²⁾。愛媛県の合計特殊出生率は全国よりも高い水準を維持しているものの、全国と同様の傾向を観察することができる。

表1 日本と愛媛県の合計特殊出生率の推移

	全 国	愛媛県		全 国	愛媛県
1950年	3.65	4.03	1995年	1.42	1.53
1960年	2.00	2.10	2000年	1.36	1.45
1970年	2.13	2.02	2005年	1.26	1.35
1975年	1.91	1.97	2006年	1.32	1.37
1980年	1.75	1.79	2007年	1.34	1.40
1985年	1.76	1.78	2008年	1.37	1.40
1990年	1.54	1.60	2009年	1.37	1.41

（注）沖縄県については、1975年から含まれている。

少子化が経済に与える影響として、(1)労働力人口が減少し、経済成長の妨げとなる、(2)社会保障の現役世代の負担が大きくなる、などが考えられる。また、社会的な影響としては、(1)親の過保護が進み、子供への干渉が過度になる、(2)子供どうしの交流機会が減り、コミュニケーション能力の養成が進まない、などが考えられる。そのため、政府や自治体は少子化対策に取り組み始めている。政府は、高校の無償化や子ども手当といった制度を新たに導入し、子育ての補助となる政策を実行している。また、特に都市部における保育施設の不足問題を解決するために、幼保一体化の施設を創設しようとしている。愛媛

2) 詳細は、厚生労働省による『平成21年版働く女性の実情』を参照。大学進学率が上昇しているため、20歳代前後の労働力率は低下しているが、大学卒業後の女性については、労働力率が上昇傾向にあることがわかる。

県では、世代育成支援対策推進法（平成 15 年 7 月 16 日法律第 120 号）に基づき、平成 17 年度から 5 年間にわたって、『子どもがすこやかに成長し、安心して子育てができ、地域が一体となって子育てをする』ということを目指として、「えひめ・未来・子育てプラン」を平成 17 年 3 月に策定し実施した。その結果、保育所の定員数が増加し、地域子育てセンターが増設され、子育て学習講座や理解講座が実施されるなどの成果が得られている³⁾。

愛媛県では全国に先駆けて 2008 年 11 月からえひめ結婚支援センターを開設した。結婚支援センターでは、企業団体が NPO や市町等と連携しながら、未婚の男女を対象として結婚支援イベントを行い、未婚の男女を引きあわせ、また交際をフォローすることによって、結婚を支援する事業を行っている。メルマガで結婚支援イベントの情報を発信し、より多くの人に出会いの場を提供したり、セミナーを行うことによって、性別を越えた自分磨きの場を提供している。

国や愛媛県の取り組みの多くは、結婚支援センターを除いて、出産・育児がしやすい環境づくりの少子化対策が中心であり、対象者は既婚者である。愛媛県内における合計特殊出生率は表 1 より 2005 年以降上昇傾向にある。ところが、愛媛県では男女ともに各世代の未婚率が上昇しており、また婚姻件数も減少傾向にある⁴⁾。これらの事実から、結婚すれば子どもを産み育てている家庭が多いことがわかる。すなわち、県内における合計特殊出生率の低下は、有配偶率（婚姻率）の低下が大きな要因であると考えられる⁵⁾。したがって、少子化対策として既婚者向けの対策だけではなく、未婚者が結婚をするようなインセンティブを与え、結婚しやすい環境を整えるような政策を実施することも重要となる。特に、若者が結婚に希望を持つことができるような環境を作っていくことが重要になってくると考えられる。

3) 詳細は、愛媛県子育て支援課ホームページを参照。

4) 詳細は、愛媛県保健福祉部生きが推進局子育て支援課作成資料を参照。

5) 有配偶率（婚姻率）とは、人口 1,000 人あたりの結婚件数のことである。

遠藤など(1990 a, 1990 b)や今井・森田(1996)は、大学生を対象に結婚に関する意識調査を行っている。遠藤など(1990 a)では、大学生の相性特性を分析しており、特に男子学生の実態が女子学生の理想像と差があり、その項目は多岐にわたっていることを明らかにしている。遠藤など(1990 b)では、『夫は仕事をし収入を得て、妻は家庭を守る』という旧来の役割分担意識は男性のほうが強いことを明らかにした。また、夫婦間のコミュニケーションについても男性のほうが『夫を上位に立たせたい』が女性よりも強いことがわかった。しかし、1990年時点では、収入と家事の完全な共同分担を男女ともに求めておらず、大学生の結婚観に新しい傾向は求められていないことが明らかとなった。今井・森田(1996)は女子学生については男性に経済力を求めていることを明らかにした。佐野ほか(2007)では、大学生を対象にアンケート調査を行い、性役割志向と理想の結婚の間にどのような関係があるかを調べた。男性は育児は積極的に行おうと考えているが、家事はしたくないと考えており、結婚相手に家庭的な面を求める傾向があることを明らかにした。中井(2007)では、立命館大学産業社会学部の女子学生を対象に結婚観を規定しているメカニズムを構造方程式モデルを用いて検証し、ライフコース観が結婚観と性役割観を繋ぐ媒介的な役割を果たしていることを明らかにした。また、望ましい結婚相手に関する分布として、エリート志向よりも家事育児に協力的で、仕事の継続を認める人を重視していることを明らかにした。三谷・赤井(2006)は高校生を対象に意識調査を行い、性別役割分業については、男女ともに否定的であり、男女共同参画の意識が浸透してきていることを明らかにしている⁶⁾。加藤・柏木(2000)は、成人前期男性25人に結婚観に関するインタビューを行い、KJ法を用いて結果を整理した。結果として、結婚観に関しては多様な考えがあるものの、家事労働や育児を担ってくれる女性が理想であるという伝統的な結婚観が残っていることが明らかとなった。これらの結果は、男性と女性

6) 性別役割分業は、結婚後、夫は仕事、妻は家事・育児という役割を担うと定義されている。

の間には結婚観に差があることを明らかにしている。

本稿では、これから結婚する若者、特に愛媛県内で最も規模の大きな愛媛大学と松山大学の文系学生を対象に、アンケート調査を行い、結婚相手にどのようなことを求めるのかを考察する。今回のアンケートでは、属性を顔、性格、体型、学歴、家事（料理）、そして所得に分類し、それぞれどの項目を結婚相手に求めるかをコンジョイント分析と呼ばれる選択型実験を行い明らかにする。最初に、データを愛媛県内出身者と愛媛県外出身者に分類し、条件付きロジットモデル（Conditional Logit Model：CL）により、県内出身者と県外出身者で選好の差があるかどうかを調べる。さらに、愛媛県内の地域ごとに選好の差があるかどうか、また性差はあるかどうかを調べる⁷⁾。最後に、明示的に選好の多様性を表現できる混合ロジットモデル（Mixed Logit Model：ML）により、愛媛県内の各地域内において、選好の差があるかどうかを調べ、考察する。

2 選択型実験とモデル

本研究で採用した選択型実験は、コンジョイント分析とよばれ、計量心理学の分野で誕生した。その後はマーケティングや交通工学、環境経済学で発展・応用してきた手法である。コンジョイント分析では、回答者に対して複数の選択肢を提示し、それらに対する回答者の評価を観ることで、選択肢における相対的な重要性を明らかにすることができる。1つ1つの選択肢を構成するものを属性、属性がとりうる値のことを水準、そして各属性と各水準の組み合わせとして表現される選択肢をプロファイルと呼ぶ。このプロファイルの組み合わせを回答者に提示し、最も望ましいものを選んでもらうという形式をとる。

選択型実験はランダム効用モデルという概念にに基づいて分析されている。回答者 k が選択肢 i を選んだ時に得られるランダム効用関数を

7) 北村・宮崎（2009）は市町村データを用い、結婚に影響する要因を考察した。彼らの分析では、都道府県格差を考量して、都市化の程度や男女比、就業状態などが結婚に与える影響をしらべている。

$$U_{ki} = V_{ki} + \varepsilon_{ki} = \sum_{n=1}^N \beta^n x_{ki}^n + \varepsilon_{ki} \quad (1)$$

と表現する。すなわち、回答者の効用を実験者に観察可能な効用 V_{ki} と観察不可能な誤差項の ε_{ki} に分解する。また、 x_{ki}^n ($n=1, \dots, N$) は選択肢を構成する N 種類の属性を表している。一般的には(1)式のように属性の限界効用 β^n と掛け合わせた線形の定式化が採用される⁸⁾

McFadden (1974) では、この誤差項に第一種極値分布を仮定することで、回答者が J 個の選択肢から i を選ぶ確率が、次の条件付きロジットモデル (Conditional Logit model: CL) に従うことを示した。

$$P_i = \frac{\exp(V_i)}{\sum_{j=1}^J \exp(V_j)} \quad (2)$$

しかしながら、CL では(i)選好の同質性 (Homogeneous Preference) と(ii)無関係な選択肢からの独立性 (Independence from Irrelevant Alternatives: IIA) の制約的な仮定が必要であることが知られている⁹⁾。Revelt and Train (1998) はこの2つの制約的な仮定を緩和する混合ロジットモデル (Mixed Logit model: ML) を提案した。ML では、回答者 k が選択肢 i を選択したときのランダム効用関数を

$$U_{ki} = V_{ki}(\beta_k) + \varepsilon_{ki} = \sum_{n=1}^N \beta_k^n x_{ki}^n + \varepsilon_{ki} \quad (3)$$

8) 限界効用は「真の」限界効用と、誤差項の分散の逆数に比例するスケールパラメータとの掛け算の項として、合わせて推定される。本研究では、スケールパラメータを1に基準化することにした。この仮定は誤差項の分散が一定であることを意味している。詳細は Train (2003) を参照。

9) IIA の問題点として、ある2つの選択肢の選択確率の比は、その一方の選択肢と完全に代替的な新たな選択肢が加わった後でも一定であることを意味している。代表的な例として、赤バス青バス問題を引き起こすことが知られている。また、選好の同質性を仮定している CL は、推定される効用パラメータは、すべての人で同一の定数となる。すなわち、各属性のある水準から得られる部分効用が個人間やグループ間を通して同一であることを意味する。結婚相手に望む条件は個人間で異なると予想されるため、選好の同質性はかなり制約的な仮定と考えることができる。

と表す。ただし、 ε_{ki} は独立同一に第一種極値分布に従うと仮定する。(3)式より、個人で異なる選好を持つということがモデル化されている。また ML では、回答者 k の選択確率を

$$P_{ki} = \int \prod_{t_1}^T \frac{\exp(V_i)}{\sum_{j=1}^J \exp(V_j)} f(\beta | \Omega) d\beta \quad (4)$$

と定式化する。(4)式で、 T は選択型実験の反復回数を表している。通常の実験型実験では、同じ回答者に数回の反復質問を行う。また、 f は β の確率密度関数、 Ω は β の平均や分散などのパラメータを表している。

選択肢はプロフィールと呼ばれており、適切な実験計画法によって、属性の相関を完全に削除することができる。本研究では、主効果直交デザインを用いている。これにより、多重共線性を完全に回避することができるという長所がある。属性の種類とレベルは通常、複数設定される。本研究では、以下の表 2 で示すような属性の設定を行っている。なお、選択型実験では通常、価格属性を設定する。しかし、本研究では、価格を仮想的な相手の所得（年収）として設定した。

主効果直交デザインによって、25 プロフィールを作成し、そこからランダムに選ばれた 2 つのプロフィールと、どちらも結婚相手として選択しないを意

表 2 属性の種類とレベル

属 性	水準 1	水準 2	水準 3	水準 4
顔	Level 1	Level 2	Level 3	—
性格	明るく優しい	自分勝手だが明るい	優しいが暗い	自分勝手に暗い
体型	細め	普通	太め	—
学歴	大卒(一流大学)	大卒(普通の大学)	高卒	—
料理	上手	下手	—	—
所得	1,000万円	600万円	300万円	—

味する,「選択しない」を組み合わせた選択セットを作成した。以下の表3に,選択セットの例を示す。

表3 選択セットの例

属性	人物A	人物B	
顔	Level 1	Level 1	
性格	自分勝手だが明るい	優しいが暗い	
体型	普通	細め	どちらも
学歴	大卒(一流大学)	高卒	選択しない
料理	上手	下手	
所得	600万円	600万円	

上記のような選択セットを回答者に提示し,最も望ましい仮想的な相手を選択してもらったこととした。なお,回答者には8つの選択セットを提示して反復質問($T=8$)を行っている。表3は選択セットの一例である。

3 調査概要

本研究におけるデータは2010年7月に,愛媛大学と松山大学の講義中に収集した¹⁰⁾ サンプル数は,愛媛大学と松山大学合計で716人である。

3.1 記述統計量

表4に本調査の記述統計量を示す¹¹⁾。

記述統計量を概観すると,アンケートの回答者の出身地は県内外に散らばっており,かつ県内でも東予地方・中予地方・南予地方とばらつきが見られる。

10) 愛媛大学における講義は法文学部の情報産業論,松山大学における講義は,経済学部1回生対象のミクロ経済学入門,2回生対象の経済政策論Ⅰと経済基礎演習,3回生以上対象の公共経済学,そしてそれぞれ3回生と4回生対象の演習Ⅱと演習Ⅲ,経営学部の経済学Ⅰである。

11) 単位は人数である。また,無回答があるため,総回答数と一致しない項目がある。

表 4 記述統計量

居住地域	愛媛県外	226
	愛媛県内	485
性別（全体）	男性	457
	女性	254
県内地域	東予	148
	中予	265
	南予	72
性別（地域別）	県外男性	173
	県外女性	53
	東予男性	97
	東予女性	51
	中予男性	145
	中予女性	120
	南予男性	42
	南予女性	30
大学	愛媛大学	177
	松山大学	539
学年	1 回生	99
	2 回生	155
	3 回生	121
	4 回生	33
	5 回生	2
付き合った経験	ある	516
	ない	192
交際経験あり （地域別）	県外男性	124
	県外女性	37
	東予男性	68
	東予女性	39
	中予男性	107
	中予女性	91
	南予男性	28
	南予女性	22
交際経験なし （地域別）	県外男性	48
	県外女性	16
	東予男性	29
	東予女性	12
	中予男性	37
	中予女性	28
	南予男性	14
	南予女性	8

また、これまで異性と付き合った経験も結婚観に対して影響を与えと考えられるが、異性との交際経験にもばらつきが見られる。そのため、結婚に対する価値観がばらつく可能性がある。

分析において、選択肢特有定数項 (Alternative Specific Constant: ASC) を導入している。分析では選択肢 1 と 2 に導入されている。本研究の設定では、ASC が正に有意に推定された場合、選択肢 1、もしくは選択肢 2 を好み、負に有意に推定された場合、その選択肢を選択しない傾向があると解釈できる。また、ASC 1 と ASC 2 の両方が負で推定されている場合、結婚に対して積極的ではないと解釈できる。

4 推定方法と推定結果

4.1 推定方法

分析は、次のように実施した。最初に、(1)愛媛県内出身の学生のときに 1 をとるダミー変数 (以下、県内ダミー) と属性変数との積の項 (以下、クロス項) を追加することで、県内出身の学生と県外出身の学生との間に、結婚相手に求める属性に差があるかについての検証を行った。次に、(2)男性のときに 1 をとるダミー変数 (以下、男性ダミー) と属性変数とのクロス項を追加することで、男子学生と女子学生との間に、結婚相手に求める属性に差があるかについての検証を行った。さらに、(3)愛媛県出身の男性をプールしたデータ、(4)愛媛県出身の女性をプールしたデータの分析を実施した。(3)と(4)では、東予地方出身のときに 1 をとるダミー変数 (以下、東予ダミー) と属性変数とのクロス項で、南予地方出身のときに 1 をとるダミー変数 (以下、南予ダミー) と属性変数とのクロス項で分析を実施した。その結果、東予地方出身者と中予地方出身者の結婚相手に求める属性の差、南予地方出身者と中予地方出身者の結婚相手に求める属性の差が明らかとなる¹²⁾

12) 今回の分析では、男女ともに中予地方出身者が多かったため、中予地方出身者とその他の地方出身者に焦点を当てた。

仮に各地域間で差があるとは言えないという結果になったとしても、地域内で選好に多様性があるかどうか、また選好に多様性があつたとすると、どの属性に関して多様性があるかは上述の分析では明らかにならない。選好の多様性があるかどうかを明らかにするためには、それぞれの地域における ML を分析する必要がある。したがって、各地域で ML を分析し、どの属性に多様性があるかを検証する。そして、地域間でどのような特色が見られるかを考察する。

4.2 推定結果

4.2.1 県内外の差と男女の差

県内出身者と県外出身者の差の推定結果は表5にまとめられている。クロス項については、Level 3 と上手が負で有意に、自分勝手だが明るいについては正で有意に推定されている。これは、県外出身者のほうが顔が良くて、料理ができる異性を好む傾向にあり、県内出身者のほうが自分勝手だとしても明るい女性を好む傾向にあると解釈できる。県内出身者のほうが県外出身者よりも自分勝手だが明るい女性を好むのは、県民性から来るかもしれない。愛媛県民は一般的には土地柄、陽気な県民性を持ち合わせていると言われており、少々自分勝手でも結婚相手に明るさを求めるのかもしれない。料理について県外出身者のほうが好む傾向にあるのは、現在一人暮らしをしていて、自炊をする大変さを直に感じていることが大きな要因であると考えることができる。

男女の差についての推定結果は表6に示されている。男性と女性が結婚相手に求める傾向にかなりの差が見られる。男性が女性よりも有意に選好する属性として、Level 3、優しいが暗い、そして上手が挙げられる。男性は基本的に外見が良く、料理ができ、特に優しい女性を好む傾向があることがわかる。これは、料理は女性がするものであり、男性に従う女性を好んでいることが要因かもしれない。また、結婚相手に顔の良さを要求することは、プライドの高さがその要因になっているかもしれない。女性が男性よりも有意に選好する属性として、明るく優しい、自分勝手だが明るい、大卒（一流大学）、大卒（普通の

表5 県内出身者と県外出身者の差の推定結果

	Coefficient	t-value	P-value
Level 2	1.4737	13.4980	0.0000
Level 2×県内ダミー	-0.1839	-1.4300	0.1527
Level 3	1.9519	15.1790	0.0000
Level 3×県内ダミー	-0.3231	-2.1490	0.0317
明るく優しい	2.9882	18.8280	0.0000
明るく優しい×県内ダミー	0.1385	0.8630	0.3881
自分勝手だが明るい	1.2857	7.8360	0.0000
自分勝手だが明るい×県内ダミー	0.5073	2.9200	0.0035
優しいが暗い	1.8447	10.3540	0.0000
優しいが暗い×県内ダミー	-0.0488	-0.2520	0.8013
細め	0.9671	7.4500	0.0000
細め×県内ダミー	0.0386	0.2490	0.8036
普通	0.9637	7.9530	0.0000
普通×県内ダミー	0.0007	0.0050	0.9962
大卒（一流大学）	0.2052	1.8840	0.0595
大卒（一流大学）×県内ダミー	0.1902	1.4950	0.1348
大卒（普通の大学）	0.4604	3.8560	0.0001
大卒（普通の大学）×県内ダミー	-0.0347	-0.2440	0.8069
上手	0.8424	8.6930	0.0000
上手×県内ダミー	-0.1944	-1.7360	0.0825
所得	0.0015	8.7350	0.0000
所得×県内ダミー	0.0002	0.9040	0.3661
ASC 1	-4.5293	-27.2280	0.0000
ASC 2	-4.4923	-26.3650	0.0000
No. of Obs.	5668		
Log-Likelihood	-3881.025		

表 6 性別の差の推定結果

	Coefficient	t-value	P-value
Level 2	1.2565	12.3810	0.0000
Level 2×男性ダミー	0.1858	1.4970	0.1345
Level 3	1.2695	10.7340	0.0000
Level 3×男性ダミー	0.7722	5.3060	0.0000
明るく優しい	3.2624	21.6730	0.0000
明るく優しい×男性ダミー	-0.2651	-1.7360	0.0826
自分勝手だが明るい	1.8516	11.7730	0.0000
自分勝手だが明るい×男性ダミー	-0.3083	-1.8550	0.0636
優しいが暗い	1.5979	9.0150	0.0000
優しいが暗い×男性ダミー	0.3411	1.7810	0.0750
細め	0.8906	7.1050	0.0000
細め×男性ダミー	0.2482	1.6070	0.1081
普通	0.9049	7.9710	0.0000
普通×男性ダミー	0.1651	1.1520	0.2493
大卒（一流大学）	0.6324	6.2240	0.0000
大卒（一流大学）×男性ダミー	-0.4655	-3.7770	0.0002
大卒（普通の大学）	0.7392	6.9700	0.0000
大卒（普通の大学）×男性ダミー	-0.5168	-3.8090	0.0001
上手	0.3512	3.9000	0.0001
上手×男性ダミー	0.5933	5.4170	0.0000
所得	0.0020	12.3220	0.0000
所得×男性ダミー	-0.0006	-2.9680	0.0030
ASC 1	-4.6095	-27.4160	0.0000
ASC 2	-4.5747	-26.5260	0.0000
No. of Obs.	5668		
Log-Likelihood	-3817.384		

大学),そして所得が挙げられる。女性は男性と違い,内面と学歴を求める傾向にある。結婚したら女性は家庭に入り,専業主婦になるという意識が強いのかもしれない。さらに,学歴が高ければ比較的賃金の高い企業に勤めることが可能であるというイメージを持っているのかもしれない。もう1つの可能性として,女性が学歴を求めるというよりも,男性が極端に学歴を求めないという結果の現れかもしれない。自分よりも良い大学を卒業している結婚相手に対して,コンプレックスを持つのかもしれない。

以上の結果をまとめると,男性は外見が優れている女性を求める傾向にあり,女性は内面とステータスを求める傾向にあることがわかった。以上のことから,相手に求めることに対して,県内外の差よりも男女差のほうが大きいことがわかった。

男性と女性にデータを分けた場合,県内出身者と県外出身者に差はあるのだろうか。表7で推定結果をまとめている。男性については県内出身者が県外出身者に比べて,自分勝手だが明るい女性を選好する傾向にある。県外出身者は県内出身者とは違い,多くの友人や知人がいるとは限らない。また,県外出身であることから,なにか問題があったときに実家にすぐに帰ることは難しいかもしれず,直接相談するとしたら大学やバイト先などの友人知人となるだろう。そのため,県外出身の男性のほうがわがままな女性を避ける傾向にあるかもしれない。一方,女性については料理に差があり,県外出身の女性のほうが,結婚相手に料理を求める傾向にある。県外出身者は一人暮らしをしており,料理を準備する大変さを身を持って実感しているのかもしれない。したがって,県外出身の女性のほうが結婚相手に料理を求めると考えられる。

以上の結果より,県内出身者と県外出身者よりも,男女という性差のほうが結婚相手に求める属性の差が大きいことがわかった。以下では,データを県内出身者別の男女別にした分析結果を整理し,考察する。

表7 男女別の県内外の差の推定結果

	女性全体			男性全体		
	Coefficient	t-value	P-value	Coefficient	t-value	P-value
Level 2	1.3581	6.0670	0.0000	1.5357	12.1750	0.0000
Level 2×県内ダミー	-0.0240	-0.0980	0.9222	-0.1915	-1.2330	0.2176
Level 3	1.4468	5.3890	0.0000	2.1561	14.3330	0.0000
Level 3×県内ダミー	-0.1065	-0.3620	0.7175	-0.2465	-1.3440	0.1789
明るく優しい	3.6072	11.3220	0.0000	2.7941	15.1750	0.0000
明るく優しい×県内ダミー	-0.0045	-0.0150	0.9880	0.1344	0.6780	0.4978
自分勝手だが明るい	1.8308	5.5670	0.0000	1.1256	5.9450	0.0000
自分勝手だが明るい×県内ダミー	0.4324	1.3300	0.1836	0.4766	2.2710	0.0232
優しいが暗い	1.8352	4.7040	0.0000	1.8232	9.0260	0.0000
優しいが暗い×県内ダミー	0.1194	0.2980	0.7656	-0.0168	-0.0730	0.9415
細め	0.6868	2.4360	0.0148	1.0927	7.3130	0.0000
細め×県内ダミー	0.3237	1.0270	0.3045	0.0204	0.1090	0.9128
普通	0.6748	2.6870	0.0072	1.1028	7.7700	0.0000
普通×県内ダミー	0.2939	1.0380	0.2994	-0.0623	-0.3490	0.7272
大卒（一流大学）	0.6251	2.7680	0.0056	0.0560	0.4430	0.6576
大卒（一流大学）×県内ダミー	0.1383	0.5630	0.5731	0.1083	0.6970	0.4858
大卒（普通の大学）	0.6663	2.6600	0.0078	0.3521	2.5240	0.0116
大卒（普通の大学）×県内ダミー	0.1428	0.5170	0.6048	-0.2241	-1.2750	0.2024
上手	0.8348	4.1100	0.0000	0.8759	7.7950	0.0000
上手×県内ダミー	-0.5460	-2.4680	0.0136	0.0652	0.4830	0.6293
所得	0.0024	6.7920	0.0000	0.0012	5.9510	0.0000
所得×県内ダミー	-0.0002	-0.4810	0.6308	0.0002	0.6770	0.4986
ASC 1	-5.1909	-16.3460	0.0000	-4.3677	-21.9600	0.0000
ASC 2	-5.2228	-15.9950	0.0000	-4.2968	-21.1290	0.0000
No. of Obs.	2031			3637		
Log-Likelihood	-1396.111			-2406.358		

4.2.2 県内男性の考察

本節では、愛媛県内3つの地域の男性の結婚相手に求める選好の差、特に東予地方と中予地方、中予地方と南予地方の選好に差があるかどうかについて考察する。推定結果は表8にまとめられている。最初に東予出身男性（以下、東予男性）と中予出身男性（以下、中予男性）を比較する。中予男性は東予男性と比べると、結婚相手に対して自分の好みの顔を求め、かつ料理の上手な女性を求める傾向にある。東予地方は祭りが盛んであり、祭りの時期になると祭り一色となる。そのため、祭りに対する理解が深い女性を求める傾向にあるかもしれない。また、中予は松山市が中心であり、大街道や銀天街、エミフル松前といったように、ファッション関係の店が県内では最も多い。そのため、男性もおしゃれを意識することがもともと根づいているかもしれない、そのため東予男性よりも顔を求める傾向にあるのかもしれない。

次に、中予出身男性と南予出身男性（以下、南予男性）を比較してみよう。南予男性は中予男性と比べて、普通程度の大学を卒業している女性を強く求める傾向にある。中予には愛媛大学、松山大学、東雲大学、聖カタリナ大学など多くの高等教育機関が集中しているが、南予には高等教育機関は少ない。すなわち、中予男性の観点から、周囲の多くの女性は大学に進学している可能性が高く、大学卒業が身近なのかもしれない。そのため、南予男性のほうが中予男性よりも大卒（普通の大学）をより強く選好するのかもしれない。

4.2.3 県内女性の考察

男性のケースと同様に、愛媛県内の3つの地域の女性の結婚相手に対する選好の差を考察する。東予出身女性（以下、東予女性）と中予出身女性（以下、中予女性）には、結婚相手に求める属性に関する選好に差があるとは言えないという結果となった。東予女性と中予女性の結婚相手に対する選好は類似しているのかもしれない。中予女性と南予出身女性（以下、南予女性）には選好の

表8 中予出身者その他の地域出身者の性別の推定結果

	県内女性			県内男性		
	Coefficient	t-value	P-value	Coefficient	t-value	P-value
Level 2	1.3282	8.7580	0.0000	1.4117	10.1620	0.0000
Level 2×東予ダミー	0.2251	0.8070	0.4199	-0.2250	-1.0970	0.2725
Level 2×南予ダミー	-0.5265	-1.5840	0.1131	0.3739	1.2290	0.2191
Level 3	1.3735	7.8910	0.0000	2.1064	12.5840	0.0000
Level 3×東予ダミー	0.1155	0.3510	0.7257	-0.4464	-1.8470	0.0647
Level 3×南予ダミー	-0.6542	-1.7170	0.0859	0.0443	0.1250	0.9002
明るく優しい	3.2525	12.4620	0.0000	2.7704	12.6530	0.0000
明るく優しい×東予ダミー	0.3851	1.1680	0.2427	0.3752	1.4080	0.1591
明るく優しい×南予ダミー	0.9795	2.4640	0.0137	0.3014	0.7920	0.4281
自分勝手だが明るい	1.9762	7.3780	0.0000	1.5522	7.2090	0.0000
自分勝手だが明るい×東予ダミー	0.4025	1.0950	0.2736	0.3627	1.3010	0.1933
自分勝手だが明るい×南予ダミー	0.4130	0.9310	0.3521	-0.4511	-1.1280	0.2593
優しいが暗い	1.7999	6.2990	0.0000	1.6184	6.8290	0.0000
優しいが暗い×東予ダミー	-0.3659	-0.8230	0.4105	0.4765	1.5330	0.1252
優しいが暗い×南予ダミー	0.7114	1.3820	0.1671	0.1856	0.4210	0.6734
細め	1.0248	5.6980	0.0000	1.2636	7.2680	0.0000
細め×東予ダミー	-0.1487	-0.4180	0.6761	-0.3507	-1.3830	0.1667
細め×南予ダミー	0.0464	0.1080	0.9140	-0.0126	-0.0350	0.9721
普通	0.9530	5.7100	0.0000	1.1897	7.4120	0.0000
普通×東予ダミー	0.1204	0.3820	0.7023	-0.2570	-1.0610	0.2887
普通×南予ダミー	0.0573	0.1470	0.8834	-0.2052	-0.6090	0.5427
大卒（一流大学）	0.7587	4.9560	0.0000	0.1725	1.2110	0.2259
大卒（一流大学）×東予ダミー	-0.0083	-0.0300	0.9760	0.1013	0.4900	0.6242
大卒（一流大学）×南予ダミー	-0.1551	-0.4840	0.6282	-0.2447	-0.8140	0.4158
大卒（普通の大学）	0.8168	5.3530	0.0000	-0.0626	-0.3970	0.6911
大卒（普通の大学）×東予ダミー	0.0024	0.0080	0.9934	0.2901	1.2310	0.2182
大卒（普通の大学）×南予ダミー	-0.1887	-0.5420	0.5878	0.5865	1.7080	0.0877
上手	0.2612	1.9970	0.0458	1.1063	8.5080	0.0000
上手×東予ダミー	-0.0760	-0.2980	0.7654	-0.3377	-1.8780	0.0604
上手×南予ダミー	0.2211	0.7620	0.4461	-0.1387	-0.5330	0.5943
所得	0.0020	8.0840	0.0000	0.0014	5.6790	0.0000
所得×東予ダミー	0.0006	1.3050	0.1919	0.0000	-0.0250	0.9802
所得×南予ダミー	0.0001	0.1110	0.9120	0.0001	0.2410	0.8093
ASC 1	-5.0001	-14.3340	0.0000	-4.4560	-17.2260	0.0000
ASC 2	-4.9795	-13.9450	0.0000	-4.3645	-16.5410	0.0000
No. of Obs.	1607			2261		
Log-Likelihood	-1108.751			-1482.189		

差がある。中予女性は南予女性に比べて、顔のよい男性を好む傾向にあり、南予女性は中予女性に比べて明るく優しい男性を好む傾向にある。すなわち、中予女性は見た目重視の、南予女性は性格重視の選好であるかもしれない。南予は愛媛県内でも気候が温暖であり、農林水産業が盛んな地域である。また、全体的に穏やかな雰囲気を持った地域である。そのような土地柄から、特に女性は顔よりも優しい男性を強く求める傾向にあるのかもしれない。

4.3 地域内における結婚相手に求める条件の差

これまでの分析は、個人の選好に差がないという仮定のもとで男女別に分類し、各地域出身者が結婚相手に求める属性の差について考察してきた。そして、男性は特に東予男性、女性は特に南予女性が他地域と異なる条件を好むことが明らかとなった。しかし、結婚相手に求める条件は個人によって異なることが考えられる。以下では、結婚相手に求める条件は個人によって異なることを条件として、各地域内でどの条件に選好の多様性が見られるかを考察していく。¹³⁾

4.3.1 東予地方

東予出身者の推定結果は表9にまとめられている。東予男性の属性パラメータについては、大卒（一流大学）以外はすべて正で有意に推定されている。標準偏差パラメータについては細めと大卒（一流大学）は有意に推定されていないため、選好に多様性があるとは言えない。見た目を表すその他の属性パラメータ Level 2 や Level 3 については有意に推定されている。標準偏差パラメータも有意に推定されているため、顔に対しては選好に多様性があると言える。性

13) 最初にすべての属性パラメータに関して、多様性があると仮定して推定した。そして、標準偏差パラメータが有意ではない属性パラメータについては多様性が無いと判断した。そのような変数に関しては、限界効用は“Non-random parameter”と表記している。一方、標準偏差パラメータの導入が採用された変数に関しては“Random parameter”と表記している。

表 9 東予出身者の推定結果

東予女性				東予男性			
	Coefficient	t-value	P-value		Coefficient	t-value	P-value
Random parameter				Random parameter			
細め	1.530	4.307	0.000	Level 2	1.309	4.975	0.000
所得	0.004	5.036	0.000	Level 3	2.450	5.330	0.000
Non-random parameter				自分勝手だが明るい	2.727	5.393	0.000
Level 2	1.047	4.024	0.000	優しいが暗い	2.736	4.702	0.000
Level 3	0.689	2.477	0.013	細め	2.064	6.226	0.000
明るく優しい	3.754	6.928	0.000	大卒（普通の大学）	0.670	2.222	0.026
自分勝手だが明るい	2.372	4.625	0.000	大卒（一流大学）	0.177	0.639	0.523
優しいが暗い	1.485	2.671	0.008	上手	1.178	4.221	0.000
普通	1.459	4.970	0.000	所得	0.002	4.739	0.000
大卒（一流大学）	0.477	1.736	0.083	ASC 3	6.005	6.296	0.000
大卒（普通の大学）	0.732	2.733	0.006	Non-random parameter			
上手	0.101	0.416	0.677	明るく優しい	4.833	8.471	0.000
ASC 3	4.847	6.676	0.000	普通	1.949	5.951	0.000
Standard deviation parameter				Standard deviation parameter			
細め	0.622	1.525	0.127	Level 2	0.776	1.861	0.063
所得	0.002	4.200	0.000	Level 3	1.600	4.172	0.000
				自分勝手だが明るい	1.434	3.587	0.000
				優しいが暗い	2.650	4.497	0.000
				細め	0.149	0.417	0.677
				大卒（一流大学）	0.564	0.930	0.353
				大卒（普通の大学）	1.084	2.287	0.022
				上手	1.319	3.868	0.000
				所得	0.001	2.447	0.014
				ASC 3	2.117	6.463	0.000
No. of Obs.	408			No. of Obs.	775		
Log-Likelihood	-250.367			Log-Likelihood	-498.776		

格を表す属性パラメータ明るく優しい、自分勝手だが明るい、そして優しいが暗いについてはすべて正で有意に推定されている。また標準偏差パラメータについては、自分勝手だが明るいと優しいが暗いが有意に推定されている。したがって、選好が多様であることが示されている。その他の属性パラメータ大卒（普通の大学）や上手、所得については正で有意に推定されている。また標準偏差パラメータについては有意に推定されている。そのため、これらの属性パラメータに関して、選好に多様性があることが示されている。

東予女性の属性パラメータに関しては、上手以外は正で有意に推定されている。そのため、上手以外の属性については、相手に求めていることが示されている。標準偏差については、所得のみが有意に推定されている。したがって、所得については選好に多様性があるが、その他の属性については多様性があるとは言えないことが示されている。

4.3.2 中予地方

中予出身者の推定結果は表10にまとめられている。中予男性の属性パラメータについては、大卒（一流大学）と大卒（普通の大学）以外は正で有意に推定されている。そのため、大卒は結婚相手に対して求める重要なパラメータではないことが示されている。標準偏差パラメータについては、優しいが暗い、上手、所得が有意に推定されている。これらの属性パラメータについては、選好に多様性があることが示されている。

中予女性に関する属性パラメータはすべて正で有意に推定されている。顔に関する属性 Level 2, Level 3 の標準偏差パラメータが有意に推定されているため、選好に多様性があることが確認できる。また、性格については自分勝手だが明るいと優しいが暗いについては選好に多様性がある。学歴については、大卒（普通の大学）について選好の多様性があることが示されている。

表 10 中予出身者の推定結果

中予女性				中予男性			
	Coefficient	t-value	P-value		Coefficient	t-value	P-value
Random parameter				Random parameter			
Level 2	1.340	6.118	0.000	優しいが暗い	1.883	5.757	0.000
Level 3	1.603	5.490	0.000	上手	1.302	7.466	0.000
自分勝手だが明るい	2.362	5.490	0.000	所得	0.002	5.500	0.000
優しいが暗い	2.067	4.515	0.000	Non-random parameter			
大卒（普通の大学）	1.219	4.568	0.000	Level 2	1.034	6.697	0.000
ASC 3	5.974	8.615	0.000	Level 3	1.869	8.534	0.000
Non-random parameter				明るく優しい	3.111	11.04 7	0.000
明るく優しい	4.398	10.19 4	0.000	自分勝手だが明るい	1.603	6.115	0.000
細め	1.870	6.660	0.000	細め	1.833	8.993	0.000
普通	1.584	6.028	0.000	普通	1.442	7.743	0.000
大卒（一流大学）	0.854	3.926	0.000	大卒（一流大学）	0.084	0.489	0.625
上手	0.352	1.948	0.051	大卒（普通の大学）	0.127	0.742	0.458
所得	0.003	7.812	0.000	ASC 3	4.516	11.50 8	0.000
Standard deviation parameter				Standard deviation parameter			
Level 2	0.697	1.725	0.085	優しいが暗い	1.130	3.574	0.000
Level 3	1.142	3.654	0.000	上手	0.844	4.434	0.000
自分勝手だが明るい	1.152	2.961	0.003	所得	0.003	7.792	0.000
優しいが暗い	1.587	4.320	0.000				
大卒（普通の大学）	1.418	4.380	0.000				
ASC 3	2.733	6.595	0.000				
No. of Obs.	959			No. of Obs.	1,151		
Log-Likelihood	-630.368			Log-Likelihood	-728.1747		

4.3.3 南予地方

南予出身者の推定結果は表 11 にまとめられている。

南予男性について、属性パラメータは大卒（普通の大学）と大卒（一流大学）以外は正で有意に推定されている。標準偏差パラメータについては、優しいが

表 11 南予出身者の推定結果

南予女性				南予男性			
	Coefficient	t-value	P-value		Coefficient	t-value	P-value
Non-random parameter				Random parameter			
Level 2	0.615	2.088	0.037	優しいが暗い	2.131	2.554	0.011
Level 3	0.024	0.121	0.903	大卒（普通の大学）	0.592	1.196	0.232
明るく優しい	4.807	6.660	0.000	所得	0.004	3.566	0.000
自分勝手だが明るい	2.897	4.195	0.000	Non-random parameter			
優しいが暗い	3.000	4.107	0.000	Level 2	1.341	3.908	0.000
細め	1.515	3.782	0.000	Level 3	1.355	2.607	0.009
普通	1.254	3.444	0.001	明るく優しい	3.711	5.828	0.000
大卒（一流大学）	0.511	1.655	0.098	自分勝手だが明るい	1.125	1.945	0.052
大卒（普通の大学）	0.628	1.978	0.048	細め	2.431	4.707	0.000
上手	0.566	1.968	0.049	普通	1.064	2.456	0.014
所得	0.002	4.085	0.000	大卒（一流大学）	0.093	0.232	0.816
ASC 3	5.802	5.827	0.000	上手	1.550	4.048	0.000
				ASC 3	5.373	5.627	0.000
				Standard deviation parameter			
				優しいが暗い	2.705	2.907	0.004
				大卒（普通の大学）	1.780	2.907	0.004
				所得	0.004	4.601	0.000
No. of Obs.	240			No. of Obs.	335		
Log-Likelihood	-153.962			Log-Likelihood	-182.7245		

暗い，大卒（普通の大学），そして所得については選好の多様性があることが示されている。

南予女性については，Level 3 以外の属性パラメータについてはすべて正で有意に推定されている。注目すべきは，南予女性の属性パラメータについて，選好に多様性があるとは言えないことが示された点である。

5 考 察

最初に、男性について考察する。ASC 3 について注目する。どの地域においても ASC 3 は正で有意に推定されているので、結婚に積極的ではないことを意味している。これは、今回のアンケート調査は学生が対象であり、特に男性なので社会で働く前に結婚のことは考えられないという意識が強く働いた結果かもしれない。ASC 3 の標準偏差パラメータが有意に推定されているのは東予男性のみである。東予男性については、大卒（一流大学）と細め以外の属性パラメータについては正で有意に推定されているため、全体的には結婚には積極的ではないが、積極的ではない理由は一様的ではないことを意味している。

3つの地域で共通しているのは、優しいが暗いと所得の標準偏差パラメータが有意に推定されているという点である。性格について、3つの地域では優しさを強く求める回答者から優しくても暗いことを相手には求めない回答者まで様々な考え方が共存していることがわかる。また所得についても、選好に多様性があることが示されている。所得は、女性の年収がどのくらいであることを示していることから、女性の就業、すなわち社会進出をどのくらい許容するかを計るパラメータになるかもしれない。どの地域においても、女性の社会進出に理解を示す回答者から自らが所得を得ることを好む回答者まで様々な考え方があることが分かる。料理に関する属性パラメータである上手と共に考えると、東予男性と中予男性については選好に多様性があることが示されている。南予男性については、他地域の男性よりも比較的料理を求める傾向が強く、伝統的な結婚観を持つ男性が多いかもしれないことを示唆している。大卒（一流大学）については、一律して属性パラメータは有意に推定されていないことから、結婚相手には一流大学卒という学歴を求めていることがわかる。これは、自分たちの通っている大学が一流ではなく、相手が一流大学卒というのは男性のプライドに係わるかもしれないため、このような結果が生じたのかもしれない。しかし、大卒（普通の大学）に関して、東予男性と南予男性については選好に

多様性があることが示されている。中予男性について、学歴は有意に推定されていないことから、一律して結婚相手に学歴を求めている傾向にあるかもしれない。東予男性だけが有意に推定されている標準偏差パラメータは Level 2 と Level 3、そして自分勝手だが明るである。東予は他の地域に比べると祭り行事は熱心である。しかし、必ずしもすべての回答者が祭りに熱心であるとは考えづらい。したがって、顔や性格の明るさについては、他の地域とは異なり、様々な考え方を持っているのかもしれない。

次に、女性について検討する。女性については、各地域で選好の多様性が示されている共通したパラメータが存在しなかった。特に、注目すべきは南予女性である。南予女性については、属性パラメータに関して選好の多様性が確認できなかった。属性パラメータについては Level 3 以外すべて正で有意に推定されているので、残りの属性パラメータについては、結婚相手に求め、さらにその好みが類似している人が多いと予測できる。東予女性については、所得についてのみ選好に多様性がある。所得を結婚相手に重視する女性とそれほど重視しない女性が存在しているのかもしれない。そのため東予地方では、女性も仕事に就く意識が強い可能性がある。一方、中予女性については、所得に選好の多様性は確認できない。属性パラメータは正で有意に推定されているため、相手に所得を求める傾向があることがわかる。したがって、中予女性のほうが結婚後家事に従事するという気持ちが強い傾向にあるのかもしれない。中予女性は、多くの属性パラメータについて、選好に多様性があることが確認できる。ASC 3 に選好の多様性を確認できる。属性パラメータが正で有意に推定されていることと合わせて考えると、全体的に結婚には積極的ではないが、理想の相手が見つかった場合には結婚することにやぶさかではないと考えている回答者から、結婚は全く考えていないという回答者まで様々な考えを持つ回答者が存在しているのかもしれない。顔については、選好に多様性があり、考え方が様々であることがわかる。明るくて優しい性格については、一律結婚相手に求める傾向にあるが、どちらか一方を持ち合わせている相手については選好に

多様性が見られる。とにかく明るい男性を好む回答者から、優しい男性を求める回答者まで様々な考え方を持つ回答者が存在している。学歴については、一流大学卒については望むが、選好の多様性は確認されていない。一方、普通の大学卒については選好の多様性が示されている。属性パラメータと合わせて考えると、大卒（普通の大学）については求める考えを持つ回答者から求めない回答者まで様々な考え方を持つ回答者が存在する。一方で、大卒（一流大学）については、結婚相手に求める傾向があるかもしれない。所得と合わせると、ステータスの高さを求める傾向が強いのかかもしれない。

6 お わ り に

本稿では、大学生の結婚相手に求める属性について、性差や地域差があるかどうかを分析した。結果として、結婚相手に求める属性の差は、地域差よりも性差のほうが大きいことが明らかとなった。そこで、男性と女性のプールデータから、愛媛県内の東予・中予・南予地域で結婚相手に求める属性に差があるかどうかを分析した。その結果、東予男性と南予女性の特徴的であることが明らかとなった。東予男性については祭りが、南予女性については気候や地域の雰囲気が影響しているかもしれない。

今回のアンケート調査は愛媛大学と松山大学の学生が対象であった。そのため、まだ結婚は現実的ではないという結果となったが、特に女性は所得に関しては重視している傾向にあることがわかった。また、男女に選好の差があることがわかった。選好に差があれば、相手がいないため結婚しないということになりかねない。したがって、既婚者を対象に少子化対策を行うだけでは不十分である。結婚をするインセンティブを与えるために、結婚祝い金制度を確立したり、性別を超えた自分磨きの場を提供することが大事になる。その意味では、結婚支援センターが行っているセミナーを拡充し、自己分析の場を作ったり、男女の選好の差を埋める、すなわち相互理解の支援は中・長期的には有効な取り組みであると考えることができる。

今後は、婚活中の男女や既婚者を対象にデータを収集し、一般的には結婚相手にどのような属性を求めるかを分析することで、より効果的な少子化対策を考察することができるだろう。また、今回は各属性に対しての限界効用 (Coefficient) は導出できているものの、それぞれのケースを限界効用を用いて比較分析をすることができない。比較分析をできるようにするためには各属性に対する支払意思額 (Willingness to Pay) を計算する必要がある。さらに、潜在クラスモデル (Latent Class Model) を用いると、どの地域とどの地域の選好がより近いのか、あるいはどの年齢の考え方が近いのかが明らかになる。今後は上述の分析を進めることが課題である。

参 考 文 献

- McFadden, D. (1974) "Conditional Logit Analysis of Qualitative Choice Behavior," In P. Aarembka (ed.) *Frontiers in Econometrics*, 105-142.
- Revelt, D., and K. Train (1998) "Mixed Logit with Repeated Choice: Households' Choices of Appliance Efficiency Level," *Review of Economics and Statistics*, 80, 647-657.
- Train, K. (2003) *Discrete Choice Methods with Simulation*. Cambridge University Press.
- 今井靖親・森田健宏 (1996) "大学生の恋愛観・結婚観," 教育実践研究指導センター研究紀要 Vol. 5, 15-22.
- 加藤千恵子・柏木恵子 (2000) "成人前期の日本男性の結婚観・仕事観—インタビューおよび KJ 法・最適尺度法による—," 発達研究, Vol. 15, 51-78.
- 北村行伸・宮崎毅 (2009) "結婚の地域格差と結婚促進策," 日本経済研究, No. 60, 79-102.
- 栗山浩一・庄子康編著『環境と観光の経済評価—国立公園の維持と管理—』, 勁草書房, 2005 年。
- 佐野まゆ・高田谷久美子・近藤洋子 (2007) "大学生における性役割思考によるライフコース観の比較," 山梨大学看護学会誌, Vol. 6, 45-52.
- 中井美樹 (2000) "若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観," 立命館産業社会論集, No. 36, 117-127.
- 遠藤公久・山根一郎・堀洋道 (1990) "大学生の結婚に対する意識(1)—性格特性の相性観について—," 筑波大学心理学研究, No. 12, 85-91.
- 遠藤公久・山根一郎・堀洋道 (1990) "大学生の結婚に対する意識(2)—結婚観について—," 筑波大学心理学研究, No. 12, 93-100.
- 三谷明美・赤井由紀子 (2006) "高校生の結婚観と母性意識に関する研究—性差による比較—," 山口県立大学看護学部紀要, No. 10, 39-43.